

氏 名 久保英也 (くぼ ひでや)

所 属 総合経営学部

職 種 教授

生年月日 1953年7月19日

[履 歴]

[学 歴]

1977年3月 神戸大学経済学部卒業

[学 位]

2005年9月 神戸大学大学院経営学研究科 博士(商学)

[職 歴]

- 1977年4月 1日 日本生命保険相互会社に入社
- 1985年3月 25日 財団法人 日本経済研究センター派遣 研究員
- 1987年4月 1日 米国シンクタンク The Conference Board(New York 在)
研究員
- 1988年4月 1日 日本生命保険相互会社 財務企画室 課長
- 1993年12月 1日 日本生命保険相互会社 総合企画部 部次長
- 1998年3月 25日 ニッセイ基礎研究所 上席主任研究員(チーフ・エコノミスト)
- 2001年3月 25日 社団法人 生命保険協会 調査部 部長
- 2003年4月 1日 神戸大学大学院 経営学研究科 助教授
- 2007年8月 1日 滋賀大学大学院 経済学部 教授
- 2009年4月 1日 滋賀大学リスク研究センター センター長
- 2014年4月 1日 滋賀大学 学長補佐
- 2019年4月 1日 立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 特任教授
- 2020年4月 1日 ワールドマスターズゲームズ 2021 関西組織委員会 参与
(Chief Strategy & Security Officer)
- 2024年4月 青森大学東京キャンパス 総合経営学部 教授(現在に至る)

[受 賞]

- 2007年1月 財団法人 簡易保険文化財団 優秀論文賞 受賞
- 2009年3月 滋賀大学 学長賞 受賞
- 2010年12月 文部科学省 東アジア保険研究プロジェクト採択
- 2011年3月 滋賀大学 学長賞 受賞
- 2022年11月 日本リスク学会 学会賞 受賞

[所属学会]

日本リスク学会（2012年：理事・年次大会実行委員/2017年：代表理事・副会長/
2018年：会長：代表理事）

日本保険学会（2011年～2018：年理事/2017年全国大会実行委員長）

生命保険経営学会

SRA-Europe『Risk Research』Editorial Board（日本代表編集委員）

[教育活動]

[担当科目]

総合経営学部：3年生演習、4年生演習、イノベーション論Ⅰ、イノベーション論Ⅱ、ベンチャー経営論、中小企業経営論、キャリア支援B、インターンシップ

[卒業研究指導]

2014年度 学部生 40名、大学院生（修士5名、博士1名）

2019年度 大学院生（修士3名）

2024年度 学部生 10名

[ゼミ指導]

3年生、4年生、修士課程、博士課程を担当。

[教育指導に関する特記事項]

全国学生ゼミナール大会へ出場

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 防災へのファイナンスの応用とコミュニティの再生
- (2) 自然環境保護資金の金融市場からの調達

[著書、論文、総説]

I. 著書、編著

『生命保険ダイナミクス』（単著）（財経詳報社/2003年4月）

『生命保険業の新潮流と将来像』（単著）（千倉書房/2005年10月）

『新・保険学』（近見正彦ほかとの共著）（有斐閣/2006年12月）

『保険市場の独立性と資本市場との融合』（単著）千倉書房/2009年10月）

『中国の公的医療保険など保険制度にかかわる計量分析』（編集/劉波ほかとの共著/サンライズ出版/2014年3月）

『中国における医療保障改革』（編集/李蓮花ほかと共著/ミネルバ書房/2014年3月）

『保险的独立性及其与資本市場的融合—以日本为例』（单著）（王美中国語訳/科学出版社（中国語）/2016年6月）

『Global Blue Economy: Analysis, Developments, and Challenges』（共著）2022年11月 Chapter5 「Risk Finance for Natural Disaster in Lakes and Coastal Seas Using Modeling Techniques」 Jinxin Zhou, Kentaro Kikuchi, Hideya Kubo, Takero Yoshida, Md. Nazrul Islam, and Daisuke Kitazawa, CRC Press, 530pages, pp.129-146 530P Published November 28, 2022
DOI: 10.1201/9781003184287-5

II. 論文

- 1) 「量的緩和政策の副作用と新たな金融政策の視点」（『マクロ経済政策の課題と争点』東洋経済新報社/2000年4月）
- 2) 「第2章 新しい金融政策の枠組みを探る」（『政策危機と日本経済』日本評論社/2001年4月）。
- 3) 「高齢化社会を見据えた公的金融のあり方」（『生命保険協会調査報告書』生命保険協会/2001年12月）
- 4) 「日本の企業年金制度の現状と課題」（『保険学会誌』第66巻：2003-12号/日本保険学会/2003年12月）
- 5) 「見直しが必要なスウェーデン公的年金のALM」（『国民経済雑誌』第188巻第6号/神戸大学経済経営学会/2003年12月）
- 6) 「スウェーデンの年金改革」（『生命保険経営』第72巻第2号/生命保険経営学会2004年3月）
- 7) 「生命保険会計の今後の方向」（『生命保険論集』第147号/生命保険文化センター2004年6月）
- 8) 「失われた[女性と年金]の議論」（『保険学雑誌』第586号/日本保険学会/2004年9月）
- 9) 「〈マクロ保障倍率〉による生命保険市場分析と販売チャネルの将来展望」（『保険学雑誌』第588号/10)日本保険学会/2005年3月）
- 10) 「生命保険会社の新たな健全性指標の提案」（『生命保険論集』第151号/生命保険文化センター/2005年6月）
- 11) 「Proposal for a New Solvency Index for Life Insurance Companies— Detection of Insolvent Companies at an Early Stage by means of Adjusted Basic Profit and Solvency DI」（『Kobe University Discussion paper』第40号/2005年9月）

- 12) 「収益力評価による生命保険会社の経営破綻リスクの早期把握」(『保険学雑誌』第 593 号/日本保険学会/2006 年 6 月)
- 13) 「生命保険市場の国際的市場制約を利用した健全性リスクマネジメント」(『2006 年度 第 19 回研究発表会講演論文集』第 19 巻/日本リスク研究学会/2006 年 11 月)
- 14) 「確率的フロンティア生産関数による生命保険会社の生産性測定と新しい経営効率指標の提案」(『保険学雑誌』第 595 号/日本保険学会/2006 年 12 月)
- 15) 「生命保険市場の国際的市場制約とリスク管理」(『環太平洋圏経営研究』第 8 号/桃山学院大学/2006 年 12 月)
- 16) 「保険料率自由化が日本の損害保険業の経営効率に与えた影響－確率的フロンティア生産関数による効率性の計測」(『損害保険研究』第 68 巻 4 号/損害保険事業総合研究所/2007 年 2 月)
- 17) 「機関投資家のための信用リスク評価」『第 20 回研究発表会講演論文集第 20 巻』/日本リスク研究学会/2007 年 11 月)
- 18) 「キャッシュフロー予測モデルの利用可能性の検証」(『保険学雑誌』第 600 号記念号/日本保険学会/2008 年 3 月)
- 19) 「再構築が求められる日本の生損保兼営グループの戦略」(『保険学雑誌』601 号/日本保険学会/2008 年 6 月)
- 20) 「[融資価格]を算出する信用リスクスプレッド評価モデルの提案」(『彦根論叢』第 374 号/2008 年 7 月)
- 21) 「景気循環を反映した長期キャッシュフロー予測モデルの提案－マクロモデルを利用した機関投資家のための信用リスク評価」『日本リスク研究学会誌』2008 年 8 月 18 巻 1 号/日本リスク研究学会/2008 年 8 月)
- 22) 「Measurement of Effects and Productivity of Deregulation in insurance industry in Japan」(『Korean Insurance Journal』 No.80/Korean Insurance Academic Society/ 2008 年 8 月)
- 23) 「信用リスク構造型モデルの改善と示唆」(『第 21 回研究発表会講演論文集』第 21 巻/日本リスク研究学会 2/008 年 11 月)
- 24) 「日本における環境保険の普及に向けた提案」(『生命保険論集』No. 167/生命保険文化センター/2009 年 6 月)
- 25) 「生命保険買取契約の価格構造と契約者還元の可能性」(『保険学雑誌』606 号/日本保険学会/2009 年 9 月)
- 26) 「死亡リスクと信用リスクとの交換モデルの提案」(『日本リスク研究学会誌』19 巻 4 号/日本リスク研究学会/2009 年 12 月)
- 27) 「破綻可能性の高い生命保険会社を事前に知らせるソルベンシー・ディフュージョン・インデックスの提案」『第 23 回年次大会講演論文集』第 23 巻/日本リスク研究学会/2010 年 11 月)

- 28) 「日本の保険会社における経営統合効果の計測」(『保険学雑誌』 612 号/日本保険学会/2011 年 3 月)
- 29) 「デフレが生命保険業に与える影響」(『生命保険経営』 79 巻 3 号/生命保険経営学会/2011 年 5 月)
- 30) 「中国における医療格差の多面的考察」『生命保険論集』 第 176 号/生命保険文化センター/2011 年 9 月)
- 31) 「死亡率統計のスージングにおける数学的手法の提案」(『保険学雑誌』 614 号/日本保険学会/ 2011 年 9 月)
- 32) 「中国新型農村合作医療保険制度の現状と DEA モデルを使用した制度運営効率の測定」(『保険学雑誌』 614 号/日本保険学会/2011 年 10 月)
- 33) 「On long-term credit risk assessment model and rating: Towards a new set of models」(first author)『Journal of Risk Research』/ Society for Risk Analysis-Europe/2011. 11)
- 34) 「確率的フロンティア生産関数を用いた中国生命保険会社の効率性評価」(『生命保険論集』 No. 177/生命保険文化センター/2011 年 12 月)
- 35) 「DEA を用いた日本市場における国内生保、外資系生保の効率性比較」(『彦根論叢』 390 号/2011 年 12 月)
- 36) 「日中および相互・株式会社韓の効率性比較からみた相互会社の国際化の評価」(『保険学雑誌』 616 号/日本保険学会/2012 年 4 月)
- 37) 「もう一つの低頻度大規模災害への対応・・・金融機能の活用」『日本リスク研究学会誌』 22 巻 2 号/日本リスク研究学会/2012 年 9 月)
- 38) 「滋賀 DI(Shiga Diffusion Indexes)、CI(Shiga Composite Indexes を軸とした新しい滋賀県景気指標の提案) (『彦根論叢』 2012 冬 394 号/2013 年 1 月)
- 39) 「貿易構造からみた日中韓 FTA の実現可能性」(『彦根論叢』 395 号 2013 春/2013 年 3 月)
- 40) 「Overview cesium contamination of freshwater fish by the Fukushima Nuclear Power Plant Accidents」(first author)『 Scientific Reports』 /Vol.1742 NO.3/2013/04/Altmetric point が歴代最高点を獲得)
- 41) 「日本の経験を生かした中国地震保険創設に向けての提案」(second author) (『保険学雑誌』 621 号/日本保険学会/2013 年 6 月)
- 42) 「中国の充実した保険教育と学生の早期就職決定が日本の保険教育に与える示唆」(『保険学雑誌』 623 号/日本保険学会/2013/12)
- 43) 「韓日地域反映に向けた関西広域連合と滋賀大学の「グローバル」戦略【韓国語】」(2nd International Seminar on promoting Economic Development and Cooperation in the Far East Asian Rim, Keimung University/2014 年 3 月)

- 44)「金利変化がソルベンシーⅡとソルベンシー・マージン基準に与える影響」(second author) (『保険学雑誌』645号/日本保険学会/2014/06)
- 45)「生保の株式会社化が株式市場に与えた影響」(『生命保険経営』82巻6号/生命保険経営学会/2014/11)
- 46)「Improvement of Life Insurance Policyholders' Protection Corporation with Emphasis on Consistency with Vietnamese Market」『Journal of Economics and Development』Vol. 17 No.2/ 2015/9)
- 47)「現代ポートフォリオ理論を用いた生保の最適資産ポートフォリオの提案」(first author)『保険学雑誌』631号/日本保険学会/2015/12)
- 48)「琵琶湖における全循環の数値シミュレーションと気候変動の関係」(second author)『生産研究』2018年1月号/東京大学生産技術研究所/2018年1月)
- 49)「今、学会の存続をかけた若手研究者の育成-シンポジウムにおける問題提起と今後の方向性」『保険学雑誌』640号/日本保険学会/2018/3)
- 50)「国民年金未納についての計量分析」(second author) (『保険学雑誌』第641号/日本保険学会/2018年06月) /2018年6月
- 51)「自然環境保護に資する環境リスクファイナンスの提案—琵琶湖と池田湖の比較研究から—」(共著)『損害保険研究』第81巻第4号/損害保険事業総合研究所/2020年2月
- 52)「琵琶湖の全循環停止リスクに対する環境リスクファイナンスの提案」(共著)『保険学雑誌』第653号/2021年6月
- 53)「コロナ感染症に対峙する3つの新指標の提案—実質新規陽性者、ARMAモデルによる短期予測、地理的時間ラグを用いた長期予測—」『リスク学研究』第31巻,1号/日本リスク学会/2021年9月
- 54)「ベトナム貧困農村部への相互型マイクロインシュランスの提供」『リスク学研究』第31巻3号/2022年6月、pp.1~11

[学会発表]

2020年11月 日本リスク学会全国大会 学会賞受賞講演

[その他の活動]

2020年7月 経団連社会基盤強化委員会企画部会報告

[公開講座、講演、セミナー]

2022年9月 JSIS講演会

[学内各種委員]

東京キャンパスキャリア支援委員 (2024年4月～)